

TSI、秋冬商戦を見直しへ

暖冬や災害を前提に

苦戦受け

TSIホールディングスは今期第3四半期（19年9～11月）の苦戦を受けて、来期以降の同時期の事業の考え方を見直す。19年9月の既存店売り上げは

前年同月比1・2%増と伸ばしたものの、10月は16・6%減、11月は4・2%減。3カ月の累計は7・1%減だった。消費増税後の10月の落ち込みが大きい

く、11月も計画通りには戻せなかった。増税や暖冬、災害の増加などが影響したとはいえず、「無駄な物は買わない、環境への意識の高まり、災害の頻度の向上、暖冬など今期は特に強く出た」（上田谷真一社長）。災害や暖冬、消費傾向などは今後も続くことを前提に、来期以降は事業全体を組み直す。また、気候に合わないセールの時期についても、競合他社とも連携しながら見直すことを働きかける。すでに着手しているプロパ

ー販売の向上や在庫量や初回投入量の抑制、自社ECを軸としたオムニチャネル化の推進は継続する。

さらに、22年2月期までの3カ年中期経営計画で重点領域とする「グループ構造の見直し」を加速する。「まとめて戦うところはまとめて」とし、中でも海外とデジタルはグループのストームを推進する。海外事業では「ハフ」の中国販売を来期にスタートする予定だ。